

第 45 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2018. 4. 26 熊山 ともみ

『アトーゼット配合錠LD/H D』

MSD(株) 大坪 之展さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、木村亜希子、薦田茉莉子、波間薫、安元稔子、熊山ともみ

近年多くの配合剤が発売されているが、さらに抗脂質異常症薬として小腸コレステロールトランスポーター阻害剤と HMG-CoA 還元酵素阻害剤の配合剤が発売されることになった。海外ではすでに 40 カ国以上の国、地域で承認済みのものである。

【効能・効果】

高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症

【用法・用量】

通常、成人には 1 日 1 回 1 錠(エゼチミブ/アトルバスタチンとして 10mg/10mg 又は 10mg/20mg) を食後に経口投与する。

【禁忌】

- (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 重篤な肝機能障害のある患者及び肝代謝能が低下していると考えられる以下のような患者
急性肝炎、慢性肝炎の急性増悪、肝硬変、肝癌、黄疸〔肝硬変患者において、アトルバスタチンの血漿中 HMG-CoA 還元酵素阻害活性体濃度が健康成人に比べて上昇した(AUC で 4.4~9.8 倍)臨床試験成績がある。したがって、これらの患者ではアトルバスタチンの血漿中濃度が上昇し、副作用の発現頻度が増加するおそれがある。また、アトルバスタチンは主に肝臓において作用し代謝されるので、肝障害を悪化させるおそれがある。〕
- (3) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦
- (4) テラプレビル、オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビルを投与中の患者

【特徴】

・アトーゼットLDはアトルバスタチン 10mg+ゼチーア、HDはアトルバスタチ

ン 20mg+ゼチーアである。薬価はLD、HDともに 177 円とゼチーアのみ薬価となる。

- ・ 2成分ともに長期処方可のため、14日処方制限がない。
- ・ ラミネート包装のため、一包化は不可。
- ・ 第一選択薬としては扱えない。
- ・ ゼチーア単剤からの切り替えは不可。アトルバスタチン 10mgからの切り替え、または、すでにアトルバスタチン 10mgとゼチーア服用している方へ処方可。

【考察】

多くの配合剤が発売されている中で、配合剤の利点としては錠数を減らすことによるコンプライアンスの向上である。それぞれ、2剤の場合は一包化できるが、アトーゼット配合剤になると一包化できない点は残念な点である。しかし、薬価がHDもLDも同じため、すでに2剤服用している方においては薬剤費の減額となると考えられる。なかなか臨床でアトルバスタチン 20mgを服用しているケースは少ないため、HDが処方されるよりLDが頻用されることとなるだろう。アトルバスタチン 5mgからの配合剤への切り替えは認められていないので、切り替え時の前回の処方等は薬歴、他科の場合は手帳を確認し注意していききたい。